

<http://ameblo.jp/utamams/entry-11226426976.html>

はじめに

リモートデスクトップの全画面表示は、プライマリディスプレイに表示するのが前提になっている。

そのため、プライマリディスプレイ以外のディスプレイで、リモートデスクトップの画面を全画面表示すると正常に表示されない。

RDP ファイルを直接編集することで、プライマリディスプレイ以外のディスプレイでも、リモートデスクトップの画面を正常に全画面表示することができる。

手順

- 1.rdp ファイルを作成する
- 2.rdp ファイルをテキストエディタで開く
3. 全画面表示にする
 - 1.screen mode id:i の行を探して値を 2 にする
 - 1.screen mode id:i:2
 2. 「 2 」 は全画面表示の意味
4. 画面のサイズの設定
 - 1.desktopwidth:i、desktopheight:i を探して、解像度の値を入力
 2. 例えばサブモニターの解像度が「1024x768」であれば、desktopwidth:i:1024、desktopheight:i:768
5. 表示位置の設定
 - 1.winposstr:s を探して、表示位置を設定する。設定値は「0 固定,1 固定,ウィンドウ左端の位置,ウィンドウ上端の位置,ウィンドウの右端の位置,ウィンドウの下端の位置」となる。
 2. 例えばメインモニターの解像度が「1200x900」、サブモニターの解像度が「1024x768」であれば、winposstr:s:0,1,1200,0,2224,768
- 6.rdp ファイルを保存